

2026年度 キャリアパス多様化支援セミナーⅠ プロジェクトファシリテーション  
アンケート集計結果

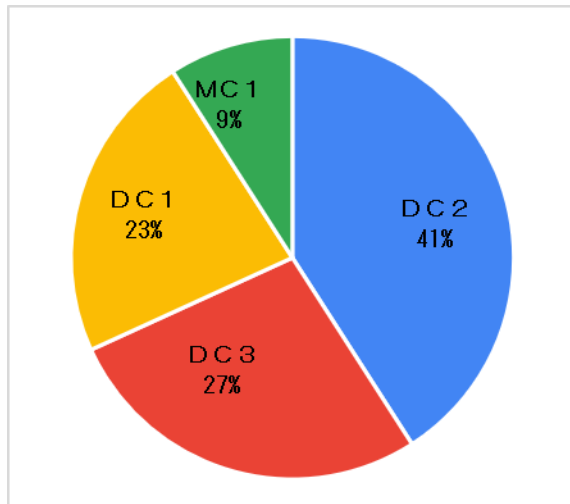
日 時：2026年6月12日（金）13:00～17:00

場 所：学術交流会館 第1会議室

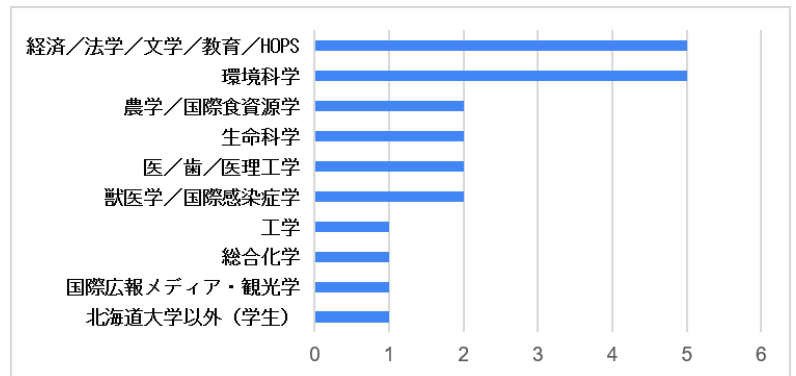
参加人数：23名（MC 2名、DC 21名）

回 答 数：22件

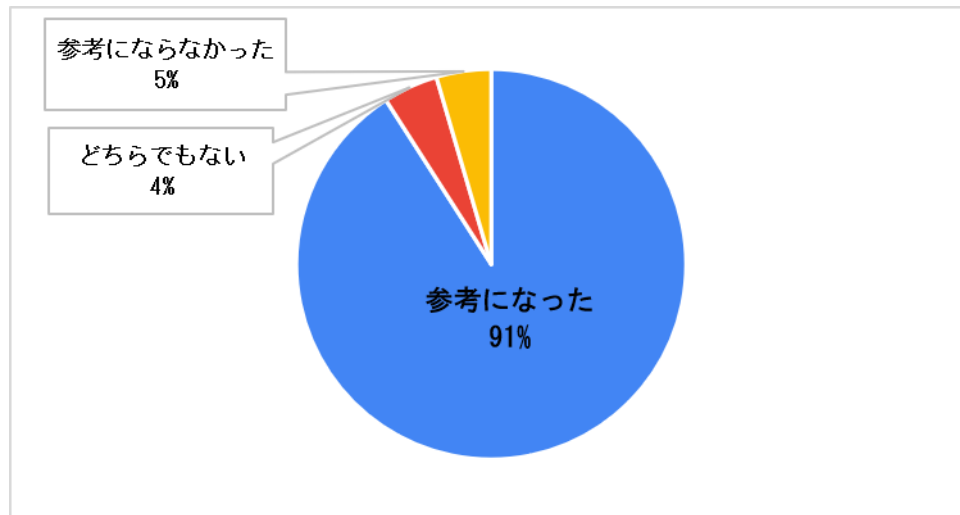
学 年



所 属



1. 本セミナーは参考になりましたか？



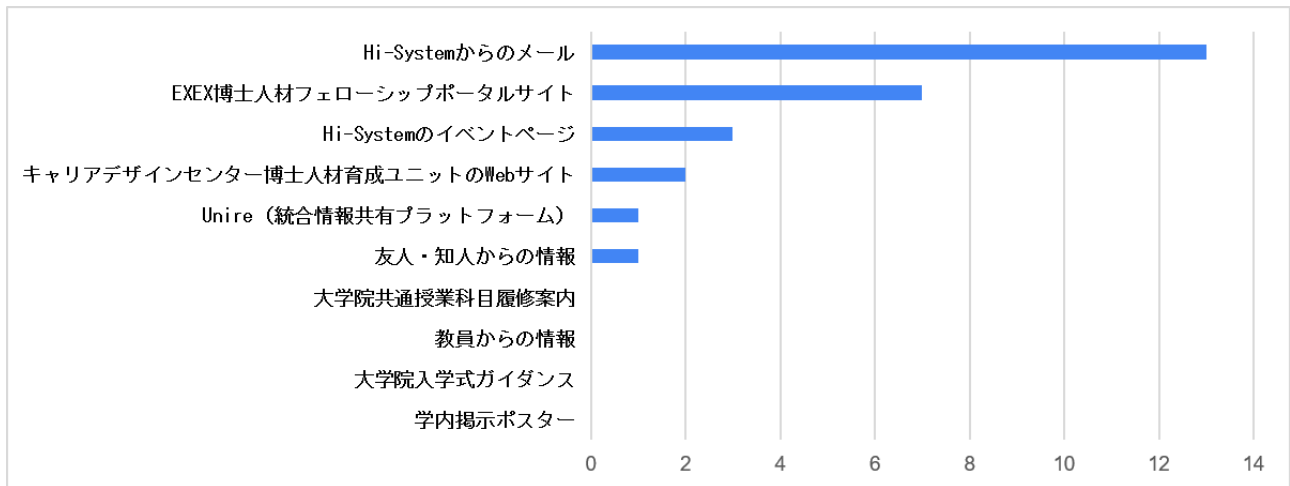
1-1. 上記1にて「参考になった」を選択した方：どの点が参考になりましたか？（具体的に）

具体的なファシリテーションの方法や協働の仕方、違う分野の方とどんなふうに関わるかを実際にやりながら学ぶことが出来た。また、これまで必要なのは決定だと思っていたが、本当に必要なのは合意（+納得の感情）だということとはとても新しい視点で参考になった。
手法
事前にアジェンダを作っておき、それに沿って議論を進めれば議論しやすいという点。最低限決めることを定めておき、複数回の議論で完成させれば良いという点。
これまで感覚的に行なっていたファシリテートだが、議論前に何を考えてどういった準備をすべきかが具体的に示されていて大変明快地にファシリテーションを理解することができた点。
会議をするにあたり準備すべき内容。及び実際にファシリテーターとして会議を進める際に何が難しいかを体験を経て知ることができた点。
ファシリテーション力は人生の楽しい時間を創ることにつながる
ファシリテーターを実際に経験することで自分の改善点が理解できました。ファシリテーターに必要なスキルも具体的に教えていただいて勉強になりました。
会議前の準備について
ファシリテーターとしての役割や傾聴の重要性
隠れファシリテーション
会議する前に必ず準備をすることが感銘を受けました。会議に参加するみんなの時間を節約するために。
実際に使う場面が、思っているよりも多く重要なことだと気づけたのが1番の収穫だと思う。
長い打合せの問題点と、その方向性修正の方法・考え方が大変参考になった。
ファシリテーションの基本的な構造や何をするためのファシリテーションなのか、という点についてよく理解できた。ミニ会議のシミュレーションを通じてファシリテーションの基本を応用したり、これからよくしていきたい部分を知ることができた。
10×4のグループワーク。ファシリテーションという概念からあまり馴染みがなかったのですが、そんな人でも実践の中でどのようなものか理解して扱うことができたから。
プロジェクトファシリテーターとして、すべき準備について具体的に学ぶことができた。

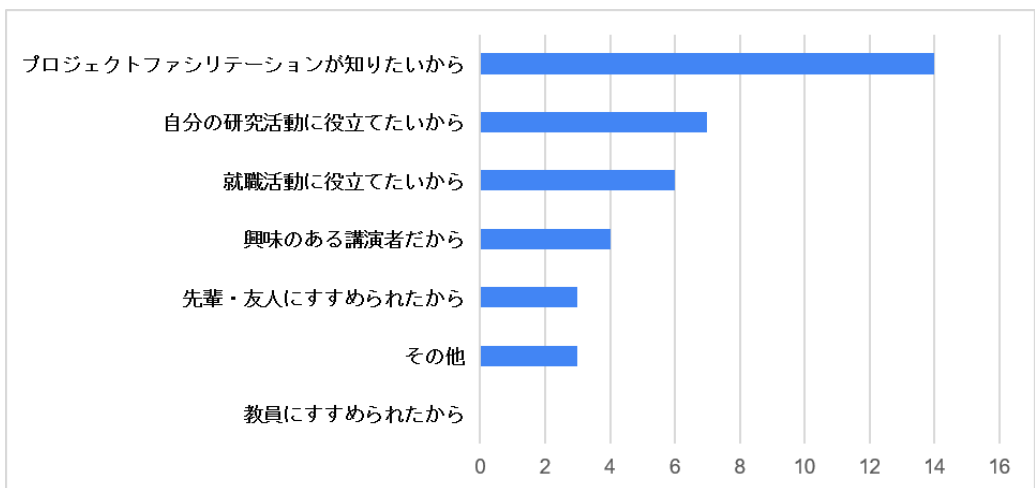
1-2. 上記1で 「参考にならなかった」を選択した方：本セミナーにどのようなことを期待していましたか？（具体的に）

違う意見のまとめ方は、最後までよくわからなかった。マンション建て替えの事例を最初に持ってきて、そこを深掘りすべき。
---

2. 本セミナー開催について、どのように知りましたか？（複数回答可）



3. 本セミナーの参加理由（複数回答可）



その他	
将来の出世のため	1
赤い糸会単位認定のため	1
EXEXのポイント集めのため	2

4. プロジェクトファシリテーションを日常もしくは研究の中でどのように活用したいですか？

普段のゼミ活動や他者との会話の場面で活用して、いろんな意見を引き出していきたい。
議論がとっ散らかりそうな時
研究室内の懇親イベントの決定や、学会参加の明確化、スケジュールリングなど
日常:友人や家族とちょっとした意見交換を行う際にも活用したいと感じた。 研究:共同研究の交渉や研究室運営の方向性を大人数で取りまとめて決定する際に活用したいと感じた。
何気ないミーティング全般において、参加者の前提情報を把握する意識およびその日に共有したい情報を決定しておく意識を持ちたい。
クライアントや研究対象者に対して傾聴を通じて、本質的な課題を解決できるようになりたい。
研究室会議でグループで話し合う時などに活用したいです
自主ゼミの進め方など

自主ゼミやPBLでの意思決定場面でスムーズに進行できるように準備を工夫してみたい
議論やラボ運営にかかわる際に使いたい。
研究室の役割決め会議など
研究の中でいろいろな会議もありますし、今後就職した後も役に立てると思います。
実際に、会議の進行役や会議中に話が脱線などした時に行きたい。
研究においては意思決定をすることはないので、日常の中の意思決定（旅行先決定等の簡単なものから）で話が逸れていかないように活用していきたい。
プロジェクトのミーティングや研究をわかりやすく専門外の人に説明する時に状況を噛み砕いて説明することや、話やキーワードを相手と擦り合わせてよりスムーズな対話に繋げたい
日常の教員との会議だったり、研究室でのゼミで活用していきたいです。

5. 本セミナーについてのご感想、または主催のキャリアデザインセンター博士人材育成ユニットへのご意見・ご要望など(自由にご記入ください)

これまでも自分ではファシリテーションが出来ていると思っていましたが、もっと司会やファシリテーターへの認識を深めることが出来ました。素敵な講義をありがとうございました。キャリアデザインセンターの大学院生向けのイベントに関してですが、教育系や心理系学生向けの進路に関わる講義がもう少しあれば嬉しいです。
全体的に参加しやすい進行だと感じました。やるべきことが明確で、しっかり刺激になる内容で、効率的に学べたと感じます。
厳密に計画されて進んでいたセミナーだったので、1つ1つ演習をやる意義をくみ取りやすく、4時間より短く感じた。
非常に勉強になるお時間をいただきました。関先生を始め準備を進めていただいた事務局の皆さまに感謝いたします。
口数が少ないので意見がないと思われるが傾聴の姿勢や隠れファシリテーターをやることで会議への参加や議論を円滑に進めることができると思えた。 非常に有意義な時間になった。今後も意識して活用していきたい
ポイント集めのためだけに行ったが、いざ聞いてみると為になるお話が聞けて良かった。ただ、少し長いかなと感じた。
初対面の人と会話するのが得意ではないのですが、グループワークの最初にやった紙を積むワークで他の参加者と打ち解けることができ、無駄な緊張もなく演習に臨むことができました。ファシリテーション自体も初心者でしたが、そんな参加者にも分かりやすい講義で本当に役に立ちました。
グループワークもあり、実践的に学ぶことができ楽しかったです。出版物等の宣伝の時間が長かったように感じました。

4時間は長すぎる。2時間で十分。だから余計なコーナーが入る。種明かしも、初めの会社紹介動画もいらない。本の紹介は10秒ぐらいでいい。傾聴のロールプレイも席替えもいらない。初めから席を決め、適宜説明を加えながら、事例のロールプレイをどんどんやればいい。最後のAIは流行りだから入れただけで、テーマが絞れていない。とりあえず乗っかればいいと思ってるところが、サラリーマンだなあと思う。自己紹介の前に会社紹介の動画を流すところも個人的には意味不明で、サラリーマンだなあ案件。

会議の進め方という意味でファシリテーションという言葉を使っているが、もともと多義的で、日本では明確な意味が定まっていないのだから、チラシにはどの意味でファシリテーションという言葉を使っているのか、分かりやすく提示しないと、参加者の満足度が大きく下がる原因になっている。そういうこと期待して参加したんじゃないんだけどなあ、という人が多くなってしまっている。

結局のところ、ほとんどの時間がファシリテーションというやり方の説明になってしまっているが、院生なら冒頭に少し説明すれば理解できるので、すぐ実践を始めるべき。

意見の違う人のまとめ方の提示がないのは、講師自身がテーマを絞れていない、ファシリテーションの言葉の意味を定めて使っていないことの証拠なのでは？ 多義的ならセミナーごとに今回はこの意味でやります、と決めてしまえばいいんですよ。

AIについては講師自身がもう少し勉強してテーマを絞れるようになってから扱ってください。